

第6回 リロケーションダメージ

◇ リロケーションダメージとは

認知症の方は家の住み替えや施設入所によって、身近な物的環境（家屋、部屋等）や人的環境（人間関係）が急激に変わると、大きなストレスを抱えてしまいます。これをリロケーションダメージといいます。

ストレスが発生すると、帰宅欲求や妄想、徘徊といった認知症の周辺症状が現れてしまうことがあります。

◇ 環境変化に対する工夫

環境変化がやむを得ない時は、それを少なくする事前準備や工夫が必要です。例えば、新しい部屋にその方のなじみの愛着物（アタッチメント）を置くこともその一つです。

スタッフがお部屋にお連れすると、「ここはどこなの？」と不安そうにしていたご利用者も、見慣れた自分の鏡台を見つけると、「あら、ここが私の部屋なのね。あ～良かった」と胸をなでおろしていました。

愛着物であった鏡台が新しい部屋にあったことで、自宅との接点になり、一時的に安心されたようです。



また、ご家族の写真やなつかしい写真も安心感につながります。

◇ すき間をうめるのは、やっぱり心です

しかし、変化の中で最も気をつけるべきは、人間関係の「ずれ」です。

その「ずれ」に該当するスタッフはなるべく早く、ご利用者の生活背景やその人自身をよく理解し、「私はあなたを脅かす存在ではない、あなたを温かく見守る存在である」ということを言葉や態度、口調等、全身を使いながら伝え続け、不安を取り除くことが大事です。

入居（所）して3カ月ぐらいまでの間は、ストレスがたまりやすいので、足浴をしながらなつかしいお話をもちだしたり、マッサージをしながらスキンシップを図ったりすると、単純に気持ちよくなる体験となり、必然と安心感につながります。

認知症高齢者の方が安心した生活を送るには、人的環境である介護スタッフに、「その人をよく知ろう、その人の心に近づこう」という姿勢がとても大切なのです。



文責：施設長 山本 忠弘（認知症介護指導者・介護福祉士・介護支援専門員）

フェイスブックもご覧ください！

三喜会のグループホーム・
デイサービスセンターの
日頃の様子を紹介。
あわせてご覧下さい。



医療法人社団 三喜会
グループホーム・デイサービスセンター青葉台

〒227-0054 横浜市青葉区しらとり台3-9

TEL. 045(981)6900 〈グループホーム〉

045(982)3200 〈デイサービスセンター〉